

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和2年度実施事業分)

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

基本目標

1 視聴覚教材センター視聴覚教育計画

圏域住民一人ひとりが、心豊かに生きがいを感じ、絆づくりと互助・共助による活力があるコミュニティ形成を目指し、生涯を通じて自立・協働・創造に向けた学習活動を展開する中で、視聴覚教材センター（あずなびあ）では、各世代が様々な学習ニーズに応じて活用できる視聴覚教材・機材を整備し、さらに、地域に根ざしたテーマに基づく視聴覚教材制作を進めて、郷土愛、創造力豊かな人材育成を図ることで、圏域住民一人ひとりの生涯学習活動の更なる充実をめざす。

また、情報教育や英語教育が必要とされる今、圏域住民の様々な学習ニーズに応えるため、事業内容の見直しを図るとともに、今後の視聴覚教材センターの在り方についても調査・研究を行う。

2 仙南広域圏の振興発展に資する事業計画

本事業は、子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成することを目標とする。

また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。

3 仙南芸術文化センター（えずこホール）事業計画

仙南芸術文化センター（えずこホール）運営の基本コンセプトは、住民参加型文化創造施設。社会包摂の考え方を基本に、圏域住民の皆さんがホールを拠点にいきいきとアート活動を展開し、手作りで舞台を制作する。また、圏域内のさまざまな機関、団体、人と、連携、協働しながらアウトリーチ活動を展開することにより、アートによる人と地域の活性化の循環を促進し、仙南圏域をいきいきさせていくことを目指す。鑑賞事業については、各分野から質の高いものを招聘し、優れた舞台表現にふれていただくと同時に、ワークショップ等、住民の皆さんが気軽に参加体験できるプログラムを併せて開催。えずこホールが世界の窓となり広くアートを体験していただく機会として提供する。

令和2年度は、例年同様、創造発信事業、参加体験事業、鑑賞事業を、圏域内すべての住民を対象に、継続的に展開することにより、新しい時代の新しいアートによる創造的な人と地域づくりを推進していく。

I 事務の点検・評価について

1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限の属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2. 点検評価の対象

令和2年度に教育委員会が定める「基本目標」に掲げた事務事業を対象としました。

3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、教育行政点検評価員会議を開催し、教育行政点検評価員として委嘱した外部の学識経験者（委嘱先については次頁参照）より意見をいただきました。

4. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育行政点検評価員会議について

1. 開催日時・場所

日 時：令和3年9月14日（火）13時30分～15時30分

場 所：仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター会議室

2. 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ（当組合教育次長より）
4. 教育に関する事務の点検・評価について（令和2年度実施事業分）
5. 閉会

3. 教育行政点検評価員の略歴

○大脇 賢次 氏

性 別	男	年 齢	65歳	在住市町	柴田町
加盟団体等	大河原町自作教材制作グループ				
主要経歴	愛知県豊山町立豊山中学校講師 他4校の講師				
	宮城県柴田郡村田町立村田第一中学校教諭 他7校歴任				
	全国自作視聴覚教材コンクール入選（5回）				
	文部省奨励研究（平成4年・一年間）				
	宮城県視聴覚教育功労者表彰				
	緊急学校支援員（平成28年度、平成29年度）				
	柴田町学び支援コーディネーター（令和元年度～令和2年度）				
大河原自作視聴覚教材グループ会長					

○八巻 寿文 氏

性 別	男	年 齢	65歳	在住市町	仙台市
加盟団体等	公益財団法人仙台市市民文化事業団、日本照明家協会				
主要経歴	舞台照明家、美術家				
	公益財団法人 仙台市市民文化事業団 職員				
	せんだい演劇工房 10・BOX 二代目工房長				
	せんだい3.11メモリアル交流館 元館長				
	日本照明家協会奨励賞				
	宮城県芸術選奨				
	文化庁長官表彰文化芸術創造都市部門				

Ⅲ 点検・評価の結果

1. 視聴覚教材・機材の整備及び貸出事業

事業目的	視聴覚教材・機材の適切に整備し、社会教育及び学校教育における学習活動場面での効果的な利用促進を図る。
事業名	① 視聴覚教材・機材の貸出 ② 学校教育・社会教育専門部会

成 果	課 題																			
<p>① 視聴覚教材・機材の貸出</p> <p>視聴覚教材については、16ミリ教材のみ利用回数・視聴者数が増となったものの、教材全体では減少している。</p> <p>DVD・VHS教材の利用減少については、新型コロナウイルス感染症のまん延により、学校の休校期間が長期化したことの影響を受けたところが多い。視聴覚機材についても同様に、ほとんどの機材において利用回数が横ばいまたは減少となった。なお、液晶プロジェクターの利用回数は全体の36.6%を占めている。</p> <p>○教材利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教材種別</th> <th>利用回数</th> <th>視聴者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DVD</td> <td>575回(718回)</td> <td>9,456名(20,968名)</td> </tr> <tr> <td>VHS</td> <td>4回(45回)</td> <td>38名(853名)</td> </tr> <tr> <td>16ミリ</td> <td>27回(21回)</td> <td>1,707名(936名)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>606回(784回)</td> <td>11,201名(22,757名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○機材利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用回数</th> <th>うちプロジェクター利用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>770回(864回)</td> <td>282回(338回)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ () 内の数字は、前年度実績</p>	教材種別	利用回数	視聴者数	DVD	575回(718回)	9,456名(20,968名)	VHS	4回(45回)	38名(853名)	16ミリ	27回(21回)	1,707名(936名)	合計	606回(784回)	11,201名(22,757名)	利用回数	うちプロジェクター利用回数	770回(864回)	282回(338回)	<p>近年の教育を取り巻く環境の変化や、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン環境の整備などにより、既存メディアであるDVD、VHS、16ミリフィルムの利用減少傾向に拍車をかけたと思料される。</p> <p>また、機材については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用回数は減少したものの、スクリーンやプロジェクターは固定の利用者により一定数以上の需要があった。</p> <p>このような状況の中で、新たな時代のニーズに応えるため、前年度導入したGoPro(アクションカメラ)、iPad(タブレット端末)やスフィロミニ(プログラミング教育用ロボット)については、主催講座や出前講座による利用としており、現在、単体での貸出は行っていないものの、講座の依頼による利用は増加しており、今後これらの機材を活用する良い流れを作り出すことができたと認識している。(2. 各種講座及び学習機会提供事業で説明)</p> <p>課題としては、新規導入機材の利用の実績が増加傾向ではあるもののまだ少なく、特にプログラミング教材については学校に対するPR</p>
教材種別	利用回数	視聴者数																		
DVD	575回(718回)	9,456名(20,968名)																		
VHS	4回(45回)	38名(853名)																		
16ミリ	27回(21回)	1,707名(936名)																		
合計	606回(784回)	11,201名(22,757名)																		
利用回数	うちプロジェクター利用回数																			
770回(864回)	282回(338回)																			

成 果	課 題										
	<p>が不十分だったため、今後は、教材の活用方法などの情報提供を積極的に行い、圏域住民にとって真に有益なセンターを目指し、最新のニーズ等に関する調査・検討を進めていきたい。</p>										
<p>② 学校教育・社会教育専門部会</p> <p>視聴覚教材選定を行うにあたり、以下の日程で各教育専門部会を開催した。</p> <p>・学校教育・社会教育専門部会（36名）</p> <p style="text-align: right;">令和2年12月15日（火）</p> <p>○令和2年度購入教材</p> <table border="1" data-bbox="240 801 965 925"> <thead> <tr> <th>社会</th> <th>理科</th> <th>その他</th> <th>A領域</th> <th>B領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0巻 (2巻)</td> <td>4巻 (8巻)</td> <td>7巻 (7巻)</td> <td>4巻 (7巻)</td> <td>4巻 (4巻)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※A領域は幼児・少年・青年向け、B領域は成人・婦人・高齢者向け。（ ）内の数字は、前年度実績</p>	社会	理科	その他	A領域	B領域	0巻 (2巻)	4巻 (8巻)	7巻 (7巻)	4巻 (7巻)	4巻 (4巻)	<p>選定は、教材のカタログ（主にDVD）を事前に専門部員へ送付し行っているが、カタログに限らず希望する教材があれば提案いただけるようお願いした。</p> <p>専門部員は教材選択のほか、調査、研究活動等を行なう目的もあるが、現在は教材選定のみが主務となっているのが課題である。</p> <p>今後は、教材選定のみではなく、教材センター事業に対しての意見聴取なども行っていきたい。また、昨年度の点検・評価でご指摘いただいたように、今後は小教研・中教研など学校と連携をしながら利用促進を図っていきたい。</p>
社会	理科	その他	A領域	B領域							
0巻 (2巻)	4巻 (8巻)	7巻 (7巻)	4巻 (7巻)	4巻 (4巻)							

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ下の状況で利用が減少することは仕方がないことだと思う。学校現場では、GIGAスクール構想を一気に導入し、各学校はどうかやろうと試行錯誤しているので、そこに寄り添った内容で進めていってほしい。 ○ 小教研、中教研等学校関係と、お互いのプラスの部分が増えていくような情報交換が必要だと思う。 ○ 教材の選定については、カタログに縛られる状況があるならば、カタログ自体に工夫の余地があるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小教研、中教研と連携して学校現場のニーズを把握し、対応していきたい。 ○ 教材選定については、カタログに限らず現場で必要な教材を重視して選定していただけるようにしていきたい。

2. 各種講座及び学習機会提供事業

事業目的	新しい知識や技術の習得を目指し、研修内容の充実を図るとともに、学習ニーズの拡大に対応した学習活動を支援する。
事業名	① カチカチッと 初心者にやさしい かんたん！ビデオ講座（定員各 8 名） ② 出前講座 ③ 出前事業（おでかけ！あずなびあ！） ④ その他の事業 ⑤ えず☆スタ ～ディス is えずこスタンス～

成 果	課 題																						
<p>① カチカチッと 初心者にやさしい かんたん！ビデオ講座</p> <p>仙南圏域の方を対象に実施。パソコンやデジタルカメラの基礎的な操作方法から、Windows フォトアプリを使用し複数の画像や動画を組み合わせた映像編集の方法を習得する。 (定員 8 名、全 6 回コース)</p> <p>A 日程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>受講者数</th> <th>受講率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 月 11 日(月)</td> <td rowspan="6">0 名 (12 名) ※感染症対策のため中止</td> <td rowspan="6">0% (100%)</td> </tr> <tr> <td>5 月 18 日(月)</td> </tr> <tr> <td>5 月 25 日(月)</td> </tr> <tr> <td>6 月 1 日(月)</td> </tr> <tr> <td>6 月 8 日(月)</td> </tr> <tr> <td>6 月 15 日(月)</td> </tr> </tbody> </table> <p>B 日程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>受講者数</th> <th>受講率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7 月 20 日(月)</td> <td rowspan="6">2 名 (16 名)</td> <td rowspan="6">25% (100%)</td> </tr> <tr> <td>7 月 27 日(月)</td> </tr> <tr> <td>8 月 3 日(月)</td> </tr> <tr> <td>8 月 17 日(月)</td> </tr> <tr> <td>8 月 24 日(月)</td> </tr> <tr> <td>8 月 31 日(月)</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	受講者数	受講率	5 月 11 日(月)	0 名 (12 名) ※感染症対策のため中止	0% (100%)	5 月 18 日(月)	5 月 25 日(月)	6 月 1 日(月)	6 月 8 日(月)	6 月 15 日(月)	開催日	受講者数	受講率	7 月 20 日(月)	2 名 (16 名)	25% (100%)	7 月 27 日(月)	8 月 3 日(月)	8 月 17 日(月)	8 月 24 日(月)	8 月 31 日(月)	<p>令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、A 日程は中止とした。B 日程、C 日程については感染症対策を十分に行い開催したものの、依然外出を自粛する傾向もあり、受講者数は定員割れとなった。</p> <p>受講者に対しては、自作教材制作者を講師として招き、作品制作時の注意点等を学んでいただいたほか、仙南ふるさと C-M グランプリの紹介と案内を行い、作品出品について働きかけを行った。新たな教材制作につながる人材の育成が不十分であるため、今後も教材制作者にご協力を頂き、教材制作へつながるよう働きかけを行っていく。</p> <p>広報活動については、引き続き仙南 2 市 7 町の視聴覚教育指導員との連携などにより、講座の周知徹底を図り、受講者の増加につなげていきたい。</p> <p>現在は初心者向けのみの実施であり、より高度な作品をつくりたい制作者へのアプローチが不十分であるため、より高度な内容の講座実施を検討していく。</p> <p>また、PC よりも身近に普及して</p>
開催日	受講者数	受講率																					
5 月 11 日(月)	0 名 (12 名) ※感染症対策のため中止	0% (100%)																					
5 月 18 日(月)																							
5 月 25 日(月)																							
6 月 1 日(月)																							
6 月 8 日(月)																							
6 月 15 日(月)																							
開催日	受講者数	受講率																					
7 月 20 日(月)	2 名 (16 名)	25% (100%)																					
7 月 27 日(月)																							
8 月 3 日(月)																							
8 月 17 日(月)																							
8 月 24 日(月)																							
8 月 31 日(月)																							

成 果			課 題																			
C 日程 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>受講者数</th> <th>受講率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月19日(月)</td> <td rowspan="6">5名 (0名)</td> <td rowspan="6">62.5% (0%)</td> </tr> <tr> <td>10月26日(月)</td> </tr> <tr> <td>11月2日(月)</td> </tr> <tr> <td>11月9日(月)</td> </tr> <tr> <td>11月16日(月)</td> </tr> <tr> <td>11月30日(月)</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	受講者数	受講率	10月19日(月)	5名 (0名)	62.5% (0%)	10月26日(月)	11月2日(月)	11月9日(月)	11月16日(月)	11月30日(月)	いるスマートフォンやタブレット端末による講座についても検討を行い、令和3年度についてはPCとタブレット端末の両方に対応した講座を企画した。								
開催日	受講者数	受講率																				
10月19日(月)	5名 (0名)	62.5% (0%)																				
10月26日(月)																						
11月2日(月)																						
11月9日(月)																						
11月16日(月)																						
11月30日(月)																						
※受講率：受講者数／定員×100。 定員を超えた分については100%とする。 ※（ ）内の数字は、前年度実績																						
② 出前講座（出前 de あずなびあ）※講師はセンター職員が担当 圏域住民の細かな要望にも応えられるよう、出前講座を実施した。 令和2年度は、前年度末に整備した iPad およびスフィロミニを活用した講座を実施したところ、受講者数が前年度から70名の増となった。特にコロナ禍でオンライン会議システムについての需要が大きく、iPad を利用したオンライン会議アプリ Zoom 講座の需要が多くあった。 また、仙南2市7町で開催している各種講座への協力依頼も多くいただいた。 ○タブレット（iPad）講座 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月11日(土)</td> <td rowspan="6">七ヶ宿町社会福祉協議会</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>7月25日(土)</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>8月8日(土)</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>8月29日(土)</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>9月12日(土)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>10月24日(土)</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>3月9日(火)</td> <td>角田市スペースタワー コスモハウス</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	会 場	受講者数	7月11日(土)	七ヶ宿町社会福祉協議会	4名	7月25日(土)	3名	8月8日(土)	5名	8月29日(土)	5名	9月12日(土)	4名	10月24日(土)	5名	3月9日(火)	角田市スペースタワー コスモハウス	3名	今後も市町との連携を図り、時代や状況にあった講座を企画し、出前講座の利用拡大及び定着を目指していきたい。 課題としては、整備した機器の台数が7台で受講者数の制限があり、市町から、より多人数に対応した講座の要望もあるため、今後追加整備が必要な点などが挙げられる。
開催日	会 場	受講者数																				
7月11日(土)	七ヶ宿町社会福祉協議会	4名																				
7月25日(土)		3名																				
8月8日(土)		5名																				
8月29日(土)		5名																				
9月12日(土)		4名																				
10月24日(土)		5名																				
3月9日(火)	角田市スペースタワー コスモハウス	3名																				

成 果			課 題
○オンライン会議 (Zoom) 講座			
開催日	会 場	受講者数	
8月18日(火)	角田市スペースタワー	3名	
9月1日(火)	コスモハウス	11名	
2月3日(水)	七ヶ宿町社会福祉協議会	6名	
2月5日(金)	仙南地域広域 行政事務組合	11名	
3月18日(木)	川崎町公民館	12名	
3月19日(金)		6名	
3月20日(土)		10名	
○タブレット・オンライン会議 (iPad・Zoom) 講座			
開催日	会 場	受講者数	
11月17日(火)昼	村田町武家屋敷	6名	
11月18日(水)昼		5名	
11月19日(木)昼		6名	
11月17日(火)夜		4名	
11月18日(水)夜		4名	
11月19日(木)夜		4名	
11月21日(土)		6名	
11月29日(日)		5名	
12月5日(土)		6名	
○プロジェクター・プログラミング (スフィロミニ) 講座			
開催日	会 場	受講者数	
10月20日(火)	角田市スペースタワー コスモハウス	4名	
○プログラミング (スフィロミニ) 講座 (小学生向け)			
開催日	会 場	受講者数	
2月2日(火)午前	白石市立小原小学校	6名	
2月2日(火)午後		10名	
合 計	9件開催 (10件開催)	154名 (84名)	
※ () 内の数字は、前年度実績			

成 果	課 題																	
<p>③ 出前事業（おでかけ！あずなびあ！）</p> <p>※講師はセンター職員が担当</p> <p>申込者の要望に合わせて事業を展開した。</p> <p>○防災訓練（DVD 上映会、水消火器体験）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月 27 日(月)</td> <td>キッズフィールド おおがわら園</td> <td>19 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○クリスマス会 （演劇体験ワークショップ、16 ミリフィルム上映）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12 月 22 日 (火)</td> <td rowspan="2">角田市横倉児童館</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>12 月 24 日 (木)</td> <td>24 名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>合 計</td> <td>2 件開催 (5 件開催)</td> <td>48 名 (122 名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※（ ）内の数字は、前年度実績</p>	開催日	会 場	参加者数	7月 27 日(月)	キッズフィールド おおがわら園	19 名	開催日	会 場	参加者数	12 月 22 日 (火)	角田市横倉児童館	5 名	12 月 24 日 (木)	24 名	合 計	2 件開催 (5 件開催)	48 名 (122 名)	<p>本事業は各教育機関等と連携し、行事・イベント等の 1 プログラムとして当教材センター所有の機材・教材に触れてもらうものであるが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人が集まる行事・イベント自体の実施が少なく、必然的に当事業の参加人数も減少した。</p> <p>今後も協働教育の一環として、本事業の定着・拡大に努めていきたい。</p>
開催日	会 場	参加者数																
7月 27 日(月)	キッズフィールド おおがわら園	19 名																
開催日	会 場	参加者数																
12 月 22 日 (火)	角田市横倉児童館	5 名																
12 月 24 日 (木)		24 名																
合 計	2 件開催 (5 件開催)	48 名 (122 名)																

成 果	課 題																		
<p>④ その他の事業</p> <p>教材センター所有の機材を用いて、圏域団体事業実施の協力を行った。</p> <p>令和2年度は、年度中に整備した配信機器を用いて、七ヶ宿町の町民向けトークイベントおよび柴田町成人式でのライブ配信を行った。いずれも市町の担当課経由で視聴者の好意的な意見をいただいた。特に成人式においては、新成人に加え、遠方に住む親戚の方々からもご好評いただき、今後もこの試みを継続してほしいといった意見が多く寄せられた。</p> <p>オンライン交流会については、丸森町立小学校の再編統合（令和4年4月）に先立ち、下記2校の児童同士の交流を深めたいといったもので、教材センターで昨年度整備したiPadを用いて学校同士をオンライン会議アプリでつなぎ、交流会への協力を行った。</p> <p>○七ヶ宿町トークイベント 「ジャップ（J u p）に会いに行こう！」ライブ配信</p> <table border="1" data-bbox="240 1030 963 1267"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12月3日(木)</td> <td>七ヶ宿町 Book&Caféこ・らっしえ</td> <td>ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 30名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○令和3年 柴田町成人式典 ライブ配信</p> <table border="1" data-bbox="240 1361 963 1599"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月10日(日)</td> <td>柴田町立船岡中学校 体育館</td> <td>ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 230名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○オンライン（Zoom）交流会</p> <table border="1" data-bbox="240 1693 963 1839"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2月24日(水)</td> <td>丸森町立舘矢間小学校、 丸森町立耕野小学校</td> <td>32名</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会 場	参加者数	12月3日(木)	七ヶ宿町 Book&Caféこ・らっしえ	ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 30名	開催日	会 場	参加者数	1月10日(日)	柴田町立船岡中学校 体育館	ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 230名	開催日	会 場	参加者数	2月24日(水)	丸森町立舘矢間小学校、 丸森町立耕野小学校	32名	<p>ライブ配信機器については、機材の専門性もあり、配信機材を使って自ら配信を行える人材の育成に至っていない。新型コロナウイルス感染症の影響により、こういったオンラインを活用したイベントの実施に対する潜在的な需要は相当程度あると思われるので、今後は広報活動により所有機材の活用方法などの提案や、機器の操作講習を実施し、利用を推進していきたい。</p>
開催日	会 場	参加者数																	
12月3日(木)	七ヶ宿町 Book&Caféこ・らっしえ	ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 30名																	
開催日	会 場	参加者数																	
1月10日(日)	柴田町立船岡中学校 体育館	ライブ 配信時 最大同時 視聴者数 230名																	
開催日	会 場	参加者数																	
2月24日(水)	丸森町立舘矢間小学校、 丸森町立耕野小学校	32名																	

成 果	課 題						
<p>⑤ えず☆スタ ～ディス is えずコスタンス～</p> <p>視聴覚教材センターの認知度、利用率の向上を目的の一つとして開催。平成 27 年度からは、かえっこプログラムを取り入れて「あずなびあまつり」として開催していたが、令和 2 年度については新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小し、二部予約制で実施した。</p> <p>内容については視聴覚教育指導員と連携して、「知識の宝箱」というブースで、教材センターで整備したスフィロミニを使ったコーナーを運営した。</p> <p>前年度より規模は縮小したものの、感染症対策を行い、感染者を出さずに実施することができた。また、来場者にもご好評をいただいた。</p> <p>○知識の宝箱</p> <p>「ボール型ロボット“スフィロミニ”を動かしてみよう！」</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">開催日</th> <th style="text-align: center;">会 場</th> <th style="text-align: center;">参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">9 月 22 日 (火・祝)</td> <td style="text-align: center;">仙南芸術文化 センター</td> <td style="text-align: center;">370 名 (2,227 名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ () 内の数字は、前年度実績</p>	開催日	会 場	参加者数	9 月 22 日 (火・祝)	仙南芸術文化 センター	370 名 (2,227 名)	<p>令和 2 年度においても、視聴覚教育指導員には企画の段階から関わっていただき、積極的にご参加いただいた。今後も指導員の方々と「みんな」が楽しめるプログラム作りを展開していきたい。</p>
開催日	会 場	参加者数					
9 月 22 日 (火・祝)	仙南芸術文化 センター	370 名 (2,227 名)					

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ下のイベントということで、いろいろな工夫をして事業を継続している努力に感心した。 ○ 初心者向けの講座はとても大事だと思うので、継続してほしい。学べる資料などをパッケージ化し、一人でも、複数人でも学べるようなものがあればよいと思う。 ○ ライブ配信機器については、機器を使える人が増えることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上級者向けの講座の実施も考えているが、初心者向けは今後も内容を充実させながら、継続して行っていく。 ○ ライブ配信機器については、貸出時に操作担当をつけてもらうなど、操作方法を学ぶことができる機会を設け、使用できる人材が増えるよう検討していく。

3. 地域学習教材制作の促進と保存事業

事業目的	地域素材を生かした自作視聴覚教材制作の支援と利用促進を図り、地域学習の教育的な効果を高めるとともに、自作視聴覚教材のデジタル化と保存に努める。
事業名	① 仙南地区自作視聴覚教材発表会 ② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援 ③ 自作視聴覚教材のデジタル化

成 果	課 題								
<p>① 仙南ふるさと C-M グランプリ (仙南地区自作視聴覚教材発表会)</p> <p>自作視聴覚教材の制作技術の向上、教材制作の奨励及び自作視聴覚教材の整備充実を図るため、仙南地区自作視聴覚教材発表会を開催した。今回も特色ある6作品が出品され、いずれも仙南地域の歴史、文化、施設、伝統行事、民俗芸能などを多くの方々に知っていただくのに最適で、ぜひ後世に伝えるべきものであるとの印象を受けた。</p> <p>また、前年度に引き続き、メディアに関するワークショップの開催も企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、講師の誘致が難しかったため、代わりに教材センターで新たに整備した iPad やスフィロミニ、ライブ配信機器などの機材の紹介と体験ワークショップを行い、今後教材を制作するうえでもご活用いただけるようアピールを行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>作品数</th> <th>参加者数</th> <th>一般視聴者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2月22日 (土)</td> <td>6作品 (7作品)</td> <td>11名 (5名)</td> <td>6名 (14名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○全国自作視聴覚教材コンクール(令和3年8月開催) 3作品推薦。</p> <p>○教材センター所有機材の紹介・体験ワークショップを行った。</p> <p>※ () 内の数字は、前年度実績</p>	開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数	2月22日 (土)	6作品 (7作品)	11名 (5名)	6名 (14名)	<p>今回は前年度に比べ作品数は減少したものの、2名の新規制作者による出品があった。今後も、視聴覚教育指導員と連携を密にすることや、各種主催講座の参加者に対して、作品制作の働きかけを積極的に行うなど、応募増加と周知徹底を行っていききたい。</p> <p>また、名称を「仙南地区自作視聴覚教材発表会」から「仙南ふるさと C-M (コミュニティメディア) グランプリ」に変更した際、教材性によらず地域の記録映像等についても募集することとしたが、要綱の見直しが必要である。</p> <p>次回以降も作品の発表会にとどまることなく、より多くの一般視聴者にもご来場いただけるようなワークショップを企画していききたい。</p>
開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数						
2月22日 (土)	6作品 (7作品)	11名 (5名)	6名 (14名)						

成 果	課 題
<p>② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援</p> <p>地域素材を映像に記録・保存したり、地域映像を制作したりする意欲のある団体や個人に対して、センター職員が助言や編集等の支援をし、地域映像の保存を図るとともに、自作視聴覚教材制作への支援を行うもの。</p>	<p>主催講座、出前講座等の際に、潜在的な制作者の掘り起こしに向け、周知を図っていききたい。また、視聴覚教育指導員を通じて、仙南2市7町の文化財や地域の歴史をテーマとした展示会の場で、関連する自作教材を上映させていただく等、利活用の促進にも努めていききたい。</p>
<p>③ 自作視聴覚教材のデジタル化</p> <p>当教材センターでは数多くの自作視聴覚教材を所有しているが、そのうちのアナログ教材については、デジタル化を行っている。</p>	<p>ふるさと C-M グランプリに出品のあった作品のデジタル化のほか、制作者に許可を得たものについては動画配信サイト（YouTube）を使ったネット配信を進めていききたい。</p> <p>前年度の点検・評価の際にご指摘いただいたように、学習指導要領では地域性のある教材の使用が推奨されていることから、小教研・中教研など学校と連携をしながら利用促進を図っていききたい。</p>

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさとC-Mグランプリについて、山形県や愛知県三河市など、参加者が多い地域のやり方を調べて勉強していただいてもほしい。また、評価の基準がはっきりしていない部分があるため、検討をお願いしたい。 ○ 自作教材のデジタル化については、古い教材は画像が荒く、使用が難しいため、地域の教材制作グループや、業者委託するなどしてバージョンアップすることができないか。 ○ 自作教材の発表の場が少ないような気がする。各市町と連携し、イベントで上映するなどできないか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさとC-Mグランプリについては、他地域も参考にしながら参加者が増えるような取り組みを検討していく。審査基準に関しては現在、見直しを進めているところである。 ○ 自作教材上映の機会については、各市町の視聴覚教育指導員とも連携し検討していく。

4. 各種関係団体との連携事業

事業目的	学校教育及び社会教育関係、各地域の団体等と連絡提携を密にし、視聴覚教材センターとしての機能の充実と生涯学習体制の推進を図る。また、その学習要求に応えられるように情報提供の充実に努める。
事業名	① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 (2) 学校教育・社会教育専門部会 (3) 社会教育等主管課長会議 ② 広報活動 ③ 現場訪問事業

成 果	課 題														
① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 構成市町の生涯学習課、公民館職員 9 名を指導員として委嘱し、視聴覚教材センターのPR活動や、教材利用の促進を図った。任期は2年となっている。 ○年 5 回開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月23日(木)</td> <td>※感染症対策のため中止</td> </tr> <tr> <td>6月23日(火)</td> <td>事業計画、えず☆スタ等</td> </tr> <tr> <td>7月21日(火)</td> <td>えず☆スタ等</td> </tr> <tr> <td>8月27日(木)</td> <td>えず☆スタ(最終調整)等</td> </tr> <tr> <td>11月11日(水)</td> <td>点検・評価、事業計画案等</td> </tr> <tr> <td>2月17日(水)</td> <td>事業計画案(最終調整)等</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内 容	4月23日(木)	※感染症対策のため中止	6月23日(火)	事業計画、えず☆スタ等	7月21日(火)	えず☆スタ等	8月27日(木)	えず☆スタ(最終調整)等	11月11日(水)	点検・評価、事業計画案等	2月17日(水)	事業計画案(最終調整)等	令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、第1回会議は中止としたが、以降については実施することができた。 昨年度と同様、会議とえず☆スタ以外に、「仙南地域にある伊達家ゆかりの物」をテーマに映像制作を行った(作品は、ふるさとC-Mグランプリへ出品)。今後もこういった協働の場を増やしていきたい。
開催日	内 容														
4月23日(木)	※感染症対策のため中止														
6月23日(火)	事業計画、えず☆スタ等														
7月21日(火)	えず☆スタ等														
8月27日(木)	えず☆スタ(最終調整)等														
11月11日(水)	点検・評価、事業計画案等														
2月17日(水)	事業計画案(最終調整)等														
(2) 学校教育・社会教育専門部会(再掲)	(1-②と同様のため省略)														
(3) 社会教育等主管課長会議 予算、決算及び各種事業の実施状況等の説明のため、構成市町社会教育等主管課長会議を開催した。 ○年 2 回開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月29日(金)</td> <td>事業実施状況報告及び決算 ※感染症対策のため中止</td> </tr> <tr> <td>11月20日(金)</td> <td>点検・評価、事業計画・予算案</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内 容	5月29日(金)	事業実施状況報告及び決算 ※感染症対策のため中止	11月20日(金)	点検・評価、事業計画・予算案	当組合教育委員会の事業を推進していくうえで、構成市町社会教育等主管課長の意見や要望を聞き取る、肝要な会議である。構成市町の理解を得て、よりよい事業を展開していけるように努めていきたい。								
開催日	内 容														
5月29日(金)	事業実施状況報告及び決算 ※感染症対策のため中止														
11月20日(金)	点検・評価、事業計画・予算案														

成 果	課 題				
<p>② 広報活動</p> <p>視聴覚教材センター事業の案内と、教材・機材の利用促進、視聴覚教育に関する情報提供を行い、利用率の向上を目指した。広報手段については、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材センターだより（隔月発行） ○教育委員会要覧（5月発行） ○教材センターのしおり（5月発行） ○各種題名一覧（5月発行） ○教材センター事業の紹介チラシ（5月発行） ○えず☆スタ（あずなびあまつり）チラシ（9月発行） ○Facebook ページの更新 	<p>今後も発行物の内容の充実、Facebook・YouTube などインターネットも積極的に活用し、事業のPRに努めたい。</p>				
<p>③ 現場訪問事業</p> <p>当教材センターの事業のPRと現場のニーズを把握するため、現場訪問を重点的に実施してきた。</p> <p>令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策のため、訪問事業については中止することとした。</p> <p>○訪問先：学校関係機関、保育所(園)、幼稚園、児童館(センター)等</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">期 間</th> <th style="text-align: center;">訪 問 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5月～12月</td> <td style="text-align: center;">※感染症対策のため中止</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	訪 問 数	5月～12月	※感染症対策のため中止	<p>今後は状況を見ながらの実施や、書面等でのアンケートなど、訪問以外の方法も検討し、ニーズの把握に努めていきたい。</p>
期 間	訪 問 数				
5月～12月	※感染症対策のため中止				

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人と人との交流・情報収集が難しい状況だが、教材センターだより等を、見ない先生もいた。そういった方への対応も考える必要があるのかなと感じた。 ○ 視聴覚教育指導員は、えず☆スタとふるさとC-Mグランプリに参加し、別の事業同士で横のつながりができているのが良いと思う。他の事業とも関連できる可能性があれば進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報発信については、紙媒体に限らずインターネットの活用や、他の方法の検討を進めていきたい。 ○ 今後も各市町の視聴覚教育指導員と連携し、事業を進めていく。

【仙南広域圏の振興発展に資する事業】

事業目的	子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成すること。また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。
事業名	① AZ9 ジュニア・アクターズ養成事業 ② AZ9 アウトリーチ事業 ③ AZ9 パスポート事業

成 果	課 題
<p>① AZ9 ジュニア・アクターズ養成事業</p> <p>自治体の枠を越えて、圏域の文化活動を担う人材の育成を目的とした事業である。仙南2市7町の小学4～6年生を対象に募集を行い、応募者は小学5・6年生の在籍者とともに、演技、ダンス、音楽など舞台芸術に関する能力を磨いた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が休校となったことから、活動開始は例年より1か月ほど遅れたものの、感染症対策を徹底し活動を行った。恒例の夏合宿についても、時期をずらし、10月に日帰りの形で公演のテーマである柴田町（しばたの郷土館）とえずこホールで実施。2月には仙南芸術文化センターで、客席を半数にするなど感染症対策を行い本公演を行った。</p> <p>○令和2年度在籍者数 33名（46名） ○本公演「しばた観音サミット～地球温暖化対策会議～」 令和3年2月13・14日（土・日） 入場者数 633名（1,316名）</p> <p>※（ ）内の数字は、前年度実績</p>	<p>本事業については、令和4年度をもって財源（ふるさと市町村圏基金運用収入+これまでの残余金）が枯渇するため、かねてより、それ以降の方向性について検討を行うこととされていた。前年度の点検・評価でも事業継続についてご指摘いただいたが、令和3年5月の当組合理事会定例会にて、「令和5年度以降も継続することを前提」として検討を進めることへの合意がなされたところである。今後は、市町担当課長会議等の場で、財政的な面や形態などを含め、多方面での協議が必要である。</p>
<p>② AZ9 アウトリーチ事業</p> <p>レッスンの成果発表の場である。さらに、圏域住民へアクターズ活動の周知徹底、演劇への興味を喚起することを目的に実施している。</p> <p>令和2年度は公演の舞台である柴田町を中心に展開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、主にアウトリーチ活動を行っている地域イベントがすべて中止となったことから、実施を見送った。</p>	<p>今後は、状況を見つつアウトリーチを実施していきたい。また、現在入団者がいない町（蔵王町、七ヶ宿町、川崎町）のイベントにも積極的に出演するなど、仙南2市7町全てにメンバーがいる状態を目指していきたい。</p>

成 果	課 題						
<p>内部向けワークショップとして、柴田町長照院にご協力いただき、公演のテーマとなった柴田町の観音様に関するお話を伺った。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">内 容</th> <th style="text-align: center;">開催日</th> <th style="text-align: center;">場 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">長照院ワークショップ</td> <td style="text-align: center;">11月21日 (日)</td> <td style="text-align: center;">柴田町長照院</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	開催日	場 所	長照院ワークショップ	11月21日 (日)	柴田町長照院	
内 容	開催日	場 所					
長照院ワークショップ	11月21日 (日)	柴田町長照院					
<p>③ AZ9 パスポート事業</p> <p>仙南圏域及び県内 6 圏域の社会教育施設等の無料開放を受けることができるパスポートを、圏域内 2 市 7 町の小・中学校及び支援学校に配布している。</p> <p>○パスポート利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙南圏域内相互利用施設：7 施設 1,246 名 (2,058 名) ・仙南圏域内相互利用以外の施設：7 施設 1,415 名 (2,979 名) <p>※ () 内の数字は、前年度実績</p>	<p>令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館期間があったため、利用人数は大きく減少した。</p> <p>引き続きホームページ等を活用し、利用促進を図っていく。</p>						

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 圏域内の子どもが所属している各種団体が、コロナでどうしたらよいかかわからない状況で、AZ9 ジュニア・アクターズが練習を続け、公演をしたことは一つのコロナ対策の模範となると思う。練習中や公演時に行ったコロナ対策をオープンにして、子どもたちが安心してできる活動があることを知ってもらいたい。 ○ 今後の活動が継続を前提として行えるとなったのは良いことだと思う。 ○ アウトリーチができないことは痛手だと思う。すそ野を広げるためにも、アウトリーチ先へ「こういったコロナ対策を行えばできます」というような提案ができれば良いと思う。このような状況下では、アウトリーチの実施数や観客数などは問題ではないので、可能な範囲で続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アウトリーチについては、ご指摘いただいたことを踏まえ、状況を見つつ可能な限り実施していきたい。

1. 活力あふれる創造発信事業

事業目的	地域住民の主体的な活動として、ホールを拠点に通年で展開するプログラム。子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の多様な方々が参加、協働してワークショップを重ね、音楽5団体の合同コンサート、演劇2団体の公演を、地元密着型の創造舞台として制作し内外に発信していく。各事業ともアートによる人材育成事業として取り組む。
事業名	<p>(1) 住民創造グループ</p> <p>① えずこシアター</p> <p>② えずこヴァイオリン&チェロ♪アカデミー</p> <p>③ えずこウインド♪アンサンブル</p> <p>④ えずこ♪男声合唱団</p> <p>⑤ えずこギター♪アンサンブル</p> <p>⑥ e☆GG (えずこ☆ゴスペル)</p> <p>⑦ えずこボランティアスタッフ</p> <p>⑧ えずこキッズクラブ (託児ボランティアスタッフ)</p> <p>(2) 住民創造グループの公演</p> <p>① えずこシアター第22回公演『自粛、自主ク、自祝』(ライブ配信)</p> <p>② えずこミュージック♪アカデミー公開リハーサルライブ配信</p> <p>③ えずこ♪男声合唱団 ライブ配信 ～えずこからのお年玉～</p> <p>④ AZ9 ジュニア・アクターズ第28回公演『しばた観音サミット～地球温暖化対策会議～』</p> <p>⑤ えずこ圏民企画劇場・・・【中止分】フルーツ☆ボックス「ファミリーコンサート2020、AZミュージックフェスティバル24th、第16回新春コンサート～仙南地区ゆかりの教職員による～、DAN DAN DANCE & SPORTS 17th、2021 プラスフィエスタ in 仙南～吹奏楽の祭典～、名手たちの饗宴 vol.6 【実施分】AZoo 第7回公演『暗がりから吠える』(採択計7事業)</p> <p>⑥ (共催事業) かんふうざわ藝塾「きむらとしろうじんじん野点 in 村田2020」</p>

成 果	課 題
<p>(1) 住民創造グループ *詳細: R2 事業報告書 P8～P10 参照</p> <p>① えずこシアター</p> <p>倉品淳子(劇団山の手事情社/俳優・演出家)を講師として迎えて14年目のシーズン。当初、台本芝居に取り組もうと、在京の気鋭作家・釘本光に台本の書き下ろしを依頼。創作活動の幅を広げようとした矢先にコロナ禍。活動内容に制限されつつも、通年の稽古、打ち合わせをZoomを用いたオンライン化を図るなど、これまでの枠にとられない活動の可能性を模索した。8月の本公演は中止を余儀なくされ、YouTubeライブ配信を行った。参加年齢層の幅も広げながら住民演劇の魅力をブラッシュアップを図り、アマチュア演劇の限界を超える活動の試みは続いている。</p> <p>● 団員数(参加者数): 22名(昨年度25名)</p> <p>● 参加者延べ人数: 550名 *オンライン参加含む(昨年度1,462名)</p>	<p>山の手事情社の倉品淳子の指導、演出のもと、無観客によるライブ配信の公演に取り組み、コロナ禍における活動のあり方を模索する一方、世代間の意識を埋めながら劇団活動を継続するなど長期的な課題を抱える。</p>
<p>② えずこヴァイオリン&チェロ♪アカデミー</p> <p>4歳から社会人までが所属し、世代間を超え、情操豊かなハーモニーは人々に笑顔を届けるえずこヴァイオリン♪アカデミーとチェロ♪アカデミー。コロナ禍において、ホールが休館の間もオンラインレッスンを行うなど、前向きな姿勢で活動を続けてきた。年代が低い子は個人レッスンで基礎を練習し、合奏練習の際に全体でみんなで奏でる楽しさを味わっている。演奏する技術は向上しているものの表現する場が少ないことが課題の一つであり、解決するため話し合いを進めている。</p> <p>■ えずこヴァイオリン♪アカデミー ● 参加者数: 11名(昨年度14名) ● 参加者延べ人数: 327名/*オンライン含む(昨年度469名)</p> <p>■ えずこチェロ♪アカデミー ● (参加者数): 5名(昨年度5名)</p> <p>● 参加者延べ人数: 163名(昨年度93名)</p>	<p>団体としての組織、運営力を蓄えていくと同時に、合奏スタイルにおいて表現力をどのように養っていくかが主な課題となっている。</p>

成 果	課 題
<p>③えずこウィンド ♪アンサンブル</p> <p>毎週火曜、主に平土間ホールを会場に練習を行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、参加者全員が集まって行う定期練習については、参加自由による個人練習やパート練習に切り替え、感染対策を講じた活動を行ってきた。昨年 11 月には毎年開催してきたえずこミュージック ♪アカデミーコンサートが新型コロナの影響で中止となったことを受け、その振替事業として、Youtube にて団体独自によるライブ配信ミニコンサートを開催。演奏する楽しさ、合奏の喜びをメンバー間でも確認するとともに音楽活動の火を灯し続けていくことも相互で確認し合いながら、コロナ禍における今後の展望を描く活動を続けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団員数（参加者数）：49 名（昨年度 39 名） ●参加者延べ人数：517 名（昨年度 2,627 名） 	<p>幅広い年齢層で構成されているため、世代間の意思疎通と演奏レベルの維持向上が課題。コロナ禍において、中核を担う中堅世代が社会的責任を負っていることから活動が思うようにできなくなっており、活動が停滞気味である。今後の運営方針や活動の軸となる目標設定など活動の継続に関わる課題が示されている。</p>
<p>④えずこ ♪男声合唱団</p> <p>参加者の平均年齢が 60 代後半と住民創造グループの中で最も高齢化が進む男声合唱団。本年度は新型コロナウイルスの影響により定期コンサートは中止になったものの、7月3日から活動を開始し、フェイスシールドの活用や広さのある練習会場にするなど工夫を凝らして練習を重ね、ライブ配信をするなどチャレンジ精神を忘れず、活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団員数（参加者数）：21 名（昨年度 22 名） ●参加者延べ人数：370 名（昨年度 603 名） 	<p>臨時休館時の活動休止以外は、一部メンバーを除いて意欲的に活動を再開する一方、若年層の参加者の取り込みが継続的な課題。高齢者が多く、コロナ禍において、フル参加が難しい点も課題となっている。</p>
<p>⑤えずこギター ♪アンサンブル</p> <p>定期練習を毎週水曜日、練習室 1・3 を会場に行っている。本年度は新型コロナウイルスの影響により6月10日から活動を開始したものの、定期コンサートやワークショップなどは中止となった。活動再開後は、パート練習や少人数グループで練習するなど密を避けつつ、練習を重ねている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団員数（参加者数）：37 名（昨年度 30 名） ●参加者延べ人数：900 名（昨年度 1,440 名） 	<p>自主運営の体制強化も図られ実力もついてきている。アウトリーチの取り組みも積極的であったが、コロナ禍において活動が停滞している。また、従来メンバーの休団者数が増えたことで、初心者育成がより大きな課題となっている。合奏のあり方など、活動やプログラムの試行錯誤が続いている。</p>
<p>⑥e☆GG（*令和3年度より えずこ☆ゴスペル に改名）</p> <p>本年度は新型コロナウイルスの影響を受けて活動を停止した。歌うことはできなくなったが、メンバー同士で声を掛けあって、定期的に情報交換をしたりと、交流の場をなくさないように心掛けてきた。その甲斐もあり、新年度に向けてどのように練習を開始していくべきか着々と計画を立て、準備を進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団員数：18 名（昨年度 18 名） ●参加者延べ人数：130 名（昨年度 520 名） 	<p>経験豊富なメンバーの退団などもあり、活動の活性化が課題。また、新型コロナの影響を受け、月 1 度の話し合いを除いて、年度末まで活動を休止。新年度以降、団体のリニューアルを行い、心機一転の活動を目指したいとしており、運営面や活動内容、メンバーのモチベーション強化など課題は増えている。</p>

成 果	課 題
<p>⑦ えずこホールボランティアスタッフ</p> <p>えずこホールの主催事業やイベントの際に、受付（もぎり・パンフレット配布など）や会場・客席誘導、バーカウンターサービスなどの接客サービス面をサポートするえずこホールボランティアスタッフ。公演が中止の中、今年の研修会では「コロナ対策」をテーマにお客様の動線を意識し、検温、アルコール消毒の案内など1つ1つ丁寧に確認し、研修を行った。一方、メンバーの高齢化が進み、新メンバーを如何に確保していくかが問題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団員数（参加者数）：28名（昨年度28名） ●参加者延べ人数：108名（昨年度227名） 	<p>緩やかではあるが、新規参加者がある一方、高齢化が進む中で工夫を凝らした活動の魅力と募集の促進が急がれる。また、サービス意識の向上や新型コロナ対応などの研修等も継続的に行っていく必要がある。</p>
<p>⑧ えずこキッズクラブ（託児ボランティアスタッフ）</p> <p>子育て中のパパママを応援したい、という気持ちから主催事業（鑑賞事業）の開催時に託児ルームを開設し、お子様をお預かりする活動を行なっている託児ボランティア。1人500円というリーズナブルな金額で、小さいお子様がいるご家族にもゆっくりと事業を鑑賞していただいている。また、月に一度のペースで開催している「えずっこひろば」は未就学児に大人気。毎回プログラムを工夫しながら子育て世代でも文化ホールに気軽に足が運べるよう取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者数：10名（昨年度15名） ●参加者延べ人数：83名（昨年度114名） ●託児預かり数7名：全3公演（昨年度31名：全7公演） 	<p>団体の主な活動の場である「えずっこひろば」において、創意工夫と人的交流が強化されつつあり、プログラムのバリエーションも強化されてきている。一方、鑑賞事業での託児数が減少傾向にあり、コロナ禍における公演事業の減少から活動機会についても周知方法を踏まえ、見直していく必要がある。</p>

成 果	課 題								
<p>(2) 住民創造グループの公演 <u>*詳細：R2事業報告書P12参照</u></p> <p>① えずこシアター演劇公演『自粛、自主ク、自祝』（ライブ配信）</p> <table border="1" data-bbox="167 1525 901 1592"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>再生数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年8月30日（日）</td> <td>平土間ホール</td> <td>1,434回</td> <td>24名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【概要】新たな試みとして、取り組んだライブ配信による演劇公演。新型コロナウイルスの影響から直接観客を動員する公演を避け、ネット会議アプリZoomを導入し、一部の参加者は遠隔で出演するなど、これまでにない工夫と実験的表現の場づくりを行った。YouTubeに配信した動画の再生回数は半年間で1,300回を越え、例年の観客数以上に作品を観ていただく機会となった。</p>	開催日	会場	再生数	参加者数	令和2年8月30日（日）	平土間ホール	1,434回	24名	<p>（* P12 記載の課題と同様）</p>
開催日	会場	再生数	参加者数						
令和2年8月30日（日）	平土間ホール	1,434回	24名						

成 果	課 題														
<p>②えぞこミュージック♪アカデミー公開リハーサルライブ配信</p> <table border="1" data-bbox="204 264 943 331"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>再生数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年11月29日(日)</td> <td>大ホール</td> <td>476回</td> <td>27名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【概要】えぞこミュージック♪アカデミーコンサートが新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったことを受け、その振り替え事業の一環として、参加団体にひとつであるえぞこウィンド♪アンサンブルによる演奏をYouTubeにライブ配信した。参加が困難なメンバーを中心に視聴が伸び、視聴のトータル再生回数は400回を優に上回った。コロナ禍におけるコンサートのあり方や今後の活動についても考えることができる取り組みとなった。</p>	開催日	会場	再生数	参加者数	令和2年11月29日(日)	大ホール	476回	27名	<p>令和2年度は、合同コンサートを中止とする判断を下したえぞこミュージック♪アカデミーコンサート実行委員会が今後、コロナ禍が続く中で動きをどのように作っていくのか、同実行委員会のメンバーも入れ替えながら、発展的な活動を描くことができるか、運営面でも工夫を講じながら進めていくことが今後の課題となっている。</p>						
開催日	会場	再生数	参加者数												
令和2年11月29日(日)	大ホール	476回	27名												
<p>③えぞこ♪男声合唱団 ライブ配信 ～えぞこからのお年玉～</p> <table border="1" data-bbox="204 835 951 902"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>再生数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年1月15日(日)</td> <td>平土間ホール</td> <td>765回</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【概要】新型コロナウイルスの影響で稽古に参加する人数を制限。通常の稽古は練習室において、パートをベースとした人数制限を敷き、取り組んでいるが、全パートによる稽古は、大きな空間と換気が可能な平土間ホールを会場に行っている。また、感染対策の観点から職業や個人的理由により練習に参加できないメンバーにも活動の状況を知るとともに、活動風景を配信により公開することで、活動の発信も含め、ライブ配信を行った。コロナ禍における表現活動の幅を考えるきっかけともなった。</p>	開催日	会場	再生数	参加者数	令和3年1月15日(日)	平土間ホール	765回	12名	<p>コロナ禍における取り組みとして、臨時的な活動のあり方を探ることができた1年の活動を通して、コロナ禍においても更なる活動の活性化へのアプローチを継続していくことが求められる。</p>						
開催日	会場	再生数	参加者数												
令和3年1月15日(日)	平土間ホール	765回	12名												
<p>④ AZ9 ジュニア・アクターズ第28回公演 『しばた観音サミット～地球温暖化対策会議～』</p> <table border="1" data-bbox="161 1440 962 1552"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年2月13日(土)</td> <td rowspan="2">大ホール</td> <td>301名</td> <td>82.2%</td> <td>174名</td> </tr> <tr> <td>2月14日(日)</td> <td>332名</td> <td>90.7%</td> <td>174名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(昨年度2回公演 639名・90.3%・124名、677名・95.6%・124名)</p> <p>【概要】仙南圏域2市7町の小学4年生～6年生で構成する児童劇団AZ9 ジュニア・アクターズ。6月から約9か月間稽古を重ね、さまざまなワークショップで体験・学習を経て創作に向けた活動を展開。柴田町の船岡城址公園の桜の開花時期が2月になった近未来を舞台に、地球温暖化の影響と考えた子どもたちが船岡平和観音に温暖化防止をお願いし、全国津々浦々の観音さまによる温暖化対策会議へと発展。奇想天外なエピソードで観客を沸かせた。元気いっぱいに歌って踊る子どもたちに会場からは温かい拍手が贈られた。</p>	開催日	会場	入場者数	入場率	参加者数	令和3年2月13日(土)	大ホール	301名	82.2%	174名	2月14日(日)	332名	90.7%	174名	<p>事業継続については組合理事会にて継続の方針を固める一方、財政面を含めた関係各所との協議が必要となっている。また、運営面においては、育てる会（保護者の会）やOB/OGほか地域との連携についての課題が継続的に指摘されている。</p>
開催日	会場	入場者数	入場率	参加者数											
令和3年2月13日(土)	大ホール	301名	82.2%	174名											
2月14日(日)		332名	90.7%	174名											

成 果	課 題												
<p>⑤えずこ圏民企画劇場 *詳細:R2事業報告書P14～P15参照</p> <p>【概 要】仙南地域に住む方々が地域に根ざして展開する企画を支援する事業。下記7事業について、審査会の採択を経て支援していく共催事業。どの事業についても参加対象は子どもから大人まで幅広く、それぞれ地域に根ざし充実した事業を展開を目指している。</p> <p>■ AZoo 第7回公演『暗がりから吠える』</p> <table border="1" data-bbox="153 481 914 593"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> <th>スタッフ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3月13日(土)</td> <td>平土間ホール</td> <td>51</td> <td rowspan="2">11</td> </tr> <tr> <td>3月14日(日)</td> <td>平土間ホール</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>【概 要】AZ9ジュニア・アクターズの卒業生による演劇プロジェクト。昨年新型コロナウイルスの影響で公演中止となったが、今年は公演実現に向け、オリジナルの脚本や手作りの舞台セットなど意欲的に取り組むことができた。</p> <p>(新型コロナのため中止となった事業) ○フルーツ☆ボックス「ファミリーコンサート2020」、○AZミュージックフェスティバル24th、○第16回新春コンサート～仙南地区ゆかりの教職員による～、○DAN DAN DANCE & SPORTS 17th、○2021 プラスフィエスタ in 仙南～吹奏楽の祭典～、○名手たちの饗宴 vol.6</p> <p>(新型コロナのため中止となった住民創造グループの自主公演等) ○えずこギター♪アンサンブル 第18回定期演奏会、○えずこ♪男声合唱団 定期演奏会 15th、○えずこウィンド♪アンサンブル チャリティコンサート 22nd、○えずこシアター第23回演劇公演、○えずこミュージック♪アカデミーコンサート 24th</p>	開催日	会場	入場者数	スタッフ数	3月13日(土)	平土間ホール	51	11	3月14日(日)	平土間ホール	55	<p>近年の傾向として、新規の申請が少ない状況が続いていることから、事業そのものの普及に向けた課題と同時に事業の見直しについても検討の余地がある。また、継続展開している事業については、明確な目標の設定と継続性、主催や運営に関わるスタッフの世代交代などがあげられている。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響で事業実施を見送る傾向がある一方、今後、コロナ禍での開催のあり方を見直す動きも出ており、実施に向けた前向きな意識作りについてもホール側とも共有していく必要がある。</p>	
開催日	会場	入場者数	スタッフ数										
3月13日(土)	平土間ホール	51	11										
3月14日(日)	平土間ホール	55											
<p>⑥かんふうざわ藝塾「きむらとしろうじん野点 in 村田 2020」</p> <table border="1" data-bbox="164 1249 951 1361"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>事業</th> <th>会場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年10月18日(土)</td> <td>野点</td> <td>寒風沢の家</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>11月22日(日)</td> <td>振り返り会</td> <td>平土間ホール</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>【概 要】えずこホール10周年記念事業(H18)の一環で実際に野点をきっかけに、その後も数年に一度、さまざまな形態で継続開催されてきた。その実績から、これまで役割を果たした参加メンバーが地域との繋がりを生かし、実施した。コロナ禍における開催地の検討では、紆余曲折があったものの、感染対策を施し、活動拠点とした寒風沢の家を会場に実施された。共催事業としてホールスタッフ協力を含め、運営に携わったほか、えずこホールを会場に実施した振り返りの会では、参加者それぞれから感想や反省点、今後の展望などについても話し合いがなされた。</p>	開催日	事業	会場	参加者数	令和2年10月18日(土)	野点	寒風沢の家	96	11月22日(日)	振り返り会	平土間ホール	21	<p>ホールが直接手掛ける野点開催は数年に1度という特別なプログラムであり、継続開催に関わる住民組織とは意識の格差なども生じてきている。支援や開催のあり方についても、今後、さらなる工夫と発展的な取り組みに向け、新たな枠組みなども検討する必要がある。</p>
開催日	事業	会場	参加者数										
令和2年10月18日(土)	野点	寒風沢の家	96										
11月22日(日)	振り返り会	平土間ホール	21										

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○AZ9「しばた観音サミット」の公演を見たが、よかったと思う。AZ9自体が毎年、社会問題をわかりやすく取り上げていることが良いと思う。歴史を専門でやっている人からは、ちゃんと歴史をやったほうが良いという意見もあるようだが、子供たちが演技やダンス、歌もやっているの、これはこれで良いと思った。</p> <p>○地域で活動するアートプロデュース集団を積極的に受け入れていることは、えずこホールの底力であると思う。表現活動として継続している人たちは、えずこホールはそのうけ皿、器になっていて、ありそうでなかなかないこと。それがえずこホールの存在意義になっていると思う。</p> <p>○男声合唱団は、高齢化が課題とのことだが、高齢者が多いこの時代、自分がワクチン接種会場に行きたくて思ったが、まだまだ若いと思う。引き続きがんばってほしい。</p> <p>○圏民企画劇場は、残念なことであるが、1年空くことで、次に立ち上がるのが大変なことだと思うので、えずこホールが様子を見て、助けてあげられるよう、声掛けをしていただきたい。</p> <p>○えずこの平土間ホールは換気も抜群なので、えずこホールの既存の使い方に囚われず、いろいろな人に使ってもらえるよう検討をお願いしたい。</p>	<p>○AZ9 ジュニア・アクトーズの参加児童が、地域の歴史的背景を学べる場については、より専門的な知見を取り入れながら、正しい歴史認識を持っていただけるよう工夫する一方、作品づくりについては創造性を活かして作っていく取り組みとしていきたい。</p> <p>○住民創造グループによる各種活動は、えずこホールが地域における循環型の創造プログラムであり、劇場機能を引き出す核である認識を持ち続け、今後も住民パワーを最大限に引き出し、活力あふれる活動を継続展開できるようそれぞれの課題と向き合いながら進めていきたい。</p> <p>○圏民企画劇場については、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中で開催ができない状態が続いていることを踏まえ、各企画事業者と活動再開に向けて、ホールからの十分なコミュニケーションをとっていくことで、活動のきっかけづくりを行ってきたい。</p>

2. うるおいの参加体験事業

事業目的	幅広いジャンルの多様な体験型ワークショップを、老若男女誰もが参加しやすいプログラムとして各種開催する。また、なかなかホールに足を運ぶことができない方々に向けて、学校、福祉施設、各種イベント等において参加体験型のワークショップを中心としたアウトリーチを展開する。両事業とも、社会包摂型の普及・参加体験事業として制作し実施する。
事業名	<p>I アウトリーチ事業</p> <p>i アーティスト編（えずこキャラバン）</p> <p>(1)ダンスアウトリーチ 楠原竜也（ダンサー）、近藤理恵（ダンサー）</p> <p>(2)音楽アウトリーチ ①荒川洋（フルート）、中川賢一（ピアノ） ②村上敏明（テノール）、中川賢一（ピアノ）</p> <p>(3)その他アウトリーチ ①上田假奈代（詩業家） ②片岡祐介（音楽家）</p> <p>ii 住民創造グループ編（えずこキャラバン）</p> <p>II ワorkshop事業</p> <p>i 各種オープンワークショップ</p> <p>ii えず☆スタ〜ディス・is・えずこスタンス〜</p>

成 果	課 題
-----	-----

<p>I アウトリーチ事業</p> <p>i アーティスト編 *詳細：R2 事業報告書 P18 ～P 19 参照</p> <p>(1)ダンスアウトリーチ 3回 参加者数 81 名</p> <p>○楠原竜也（ダンサー）、近藤理恵（ダンサー） 大内小学校、館矢間小学校（丸森2）、前川小学校（川崎1）</p> <p>【概 要】 コミュニケーション・ダンスは、互いに目を合わせてポーズを取ったり、ブリッジをしている友だちの下をくぐり抜けたり、子どもたちが笑顔で自由な表現に触れるダンスプログラム。新型コロナの影響で、学校からもさまざまな制限が加わる中、可能なことをプログラムに取り入れ、最大限に楽しく子どもたちが取り組める工夫を行った。地元の放送局の取材が複数入るなど、教育現場やひいては地域社会に与える影響は大きく、こうした活動の注目度を垣間見ることができる機会だった。</p>	<p>【全体課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなアーティストによるアウトリーチプログラムの提供。そのための全国レベルの幅広い情報収集やネットワークが必要。 ・アウトリーチ事業は、手間がかかる側面があり、広域圏での実施には、質や量の担保も必要でスタッフのスキルの蓄積とモチベーション維持も課題。 ・少人数・小空間を基礎とするアウトリーチ事業に対し、公平性や平等性を重んじる教育的観点から、大規模校から手が上がりにくい状況がある。
--	--

成 果	課 題
<p>(2)音楽アウトリーチ 9回 参加者 397名 ①中川賢一（ピアノ）×荒川洋（フルート）4回 参加者数 160名 角田小学校、北郷小学校（角田3）、大平小学校（白石1）</p> <p>②村上敏明（テノール）×中川賢一（ピアノ）3回 参加者 166名 船岡小学校（柴田1）、金ヶ瀬小学校（大河原1）、越河小学校（白石1）</p> <p>③片岡祐介（音楽家）2回 参加者 71名 白石陽光園（白石2）</p> <p>【概要】藤原歌劇団に所属し、人気実力ともに国内トップのオペラ歌手、村上敏明（テノール）と仙南でも長きにわたり学校アウトリーチ事業に参加し、抒情性と力強さを併せ持つ演奏で聴く人の心をひきつける中川賢一（ピアノ・仙台出身）。この二人の組み合わせのアクティビティは仙南では初の取り組みとなった。圧巻のパフォーマンスと親しみやすい雰囲気と言葉巧みな話術にこどもたちから笑顔がこぼれた。体験を交えながらのメリハリが効いたプログラムに、時間が経つのも忘れ、上質な音楽体験を堪能した。また、白石陽光園では音楽家・片岡祐介で即興音楽を作成。午前は居住している利用者さんたちと好きな食べ物をテーマにしたオリジナルソングを作成し、様々な楽器でセッションを楽しんだ。午後からはデイサービス利用者さんたちとタイトル「懐かしい青春」ソングを作成。最後にみんなで合唱するなど大いに盛り上がった。施設で、なかなか外出やイベントができなかったので良かったと喜んでいただいた。</p>	
<p>(3)その他アウトリーチ 1回 参加者数 75名 上田假奈代（詩業家） 寒風沢地区（村田1）</p> <p>【概要】詩人・詩業家としていろいろな人々の声と言葉を聞いてきた上田假奈代。村田町で地域づくり活動をしている寒風沢の家にて、参加者と「5.7.5」の言葉の組み合わせを楽しむ合作俳句を実施。「すべての句が違う人物が書くので、最後にまとめる人が大変なのだがそれが面白い」と好評だった。</p>	
<p>ii 住民創造グループ編 *詳細：R2事業報告書P19参照</p> <p>○えずこ♪男声合唱団 特別養護老人ホーム楽園が丘 2回 参加者 48名（昨年7回 455名） *昨年度住民創造グループ全体／計 24回 参加者 1,705名</p> <p>【概要】えずこホールを拠点に活動する各種住民創造グループによるアウトリーチ活動であるが、本年は新型コロナの影響から、さまざまな現場からのオファーやイベントの中止などが相次ぎ、唯一えずこ♪男声合唱団による福祉施設での活動にとどまった。こうした時期での開催は開催先との信頼感があっての実施であることも踏まえ、開催意義の深い取り組みであった。</p>	<p>各団体とも各年によって運営状況に大きく左右される事業でもあり、安定的な運営を確保しつつ地域との繋がりを作っていく必要がある。キャラバン事業推進の方針は各団体とも浸透しつつあり、今後は運営や地域交流によって活動のモチベーション強化が継続的な課題となる。年度末より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各団体の活動が休止したことから、日常の活動をどのように戻していくかなどの課題を抱えることになった。</p>

成 果	課 題										
<p>II ワークショップ事業</p> <p>i 各種オープンワークショップ *詳細: R2 事業報告書 P21 ~参照</p> <p>○「えずっこひろば」9回 182名 (昨年度 12回 140名)</p> <p>○劇場版・イベント配信入門講座 2回 20名</p> <p>○60歳からの楽しいクラブ活動!! 3回 27名 (昨年度 3回 20名)</p> <p>○0歳からのえずこクラシックデビューコンサート 1回 60名</p> <p>○キク、ミル、ツナガル えずこ復興応援プロジェクト ~ココロがツナガルコトバがツナガルワークショップ~ 4回 33名</p> <p>○キク、ミル、ツナガル えずこ復興応援プロジェクト ~世界で一番大切なあなたへ~ 1回 13名</p> <p>○音楽喫茶 ♪ezuko 1回 37名</p> <p>○ボイストレーニングワークショップ 1回 7名</p>	<p>多岐に亘るジャンルを幅広く実施するための資金やマンパワーをどう確保し、幅広い対象に向けて実施していけるか、多面的な課題と継続性に対峙していかなければならない。鑑賞事業との連携やアウトリーチ事業との連携など応用できることについても大いに検討の余地がある。</p>										
<p>ii えず☆スタ~ディス・is・えずこ・スタンス~</p> <p>*詳細: R2 事業報告書 P24 ~参照</p> <table border="1" data-bbox="172 1200 951 1350"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> <th>スタッフ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和2年9月22日(火・祝)</td> <td rowspan="3">※</td> <td>① 191名</td> <td rowspan="3">95名</td> </tr> <tr> <td>② 179名</td> </tr> <tr> <td>合計 370名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※えずこホール全館</p> <p>【概要】コロナ禍においてどこにも行けない、遊べない、そうした窮屈な生活の中に安心して遊べる空間を作るという趣旨で企画したえず☆スタ(ディス is えずこスタンス)。感染対策を講じながら入念に準備を行い、“ソーシャルディスタンス”の確保に努めつつ、人数制限を設け、2回に分けて実施した。えずこホールを拠点に活動する住民創造グループの皆さんを中心にボランティア含む多数の参加者で作りあげる参加体験型のイベントとなった。コンサートほか、ものづくりや楽器体験など、子どもたちが主体的に感じ、考えながら体験できるコーナーは大きな反響を呼んだ。コロナ禍におけるイベントの在り方を模索し、検温、消毒・マスク、換気、ディスタンスなどの対策を講じた。多角的な視点が求められる事業であったが、今後の事業開催に向けて非常に意義のある取り組みとなった。</p>	開催日	会場	入場者数	スタッフ数	令和2年9月22日(火・祝)	※	① 191名	95名	② 179名	合計 370名	<p>ボランティア参加を中心とするスタッフの不足により運営面の強化が望まれる。</p> <p>また、市町や地域との連携強化と新規コンテンツの開発も課題となる。また、新型コロナの拡大の影響で、3密になりがちなかえっこバザールを使ったプログラムに代わるイベントとして、根本的な見直しを図られる中、こうした事業のあり方と事業継続についても、発展的視点での検討が必要となっている。</p>
開催日	会場	入場者数	スタッフ数								
令和2年9月22日(火・祝)	※	① 191名	95名								
		② 179名									
		合計 370名									

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○スタッフの不足やマンパワーの確保の困難など、事業を行うのに不都合が多い中、ワークショップ等のイベントをコロナ対策などの危機管理の体制を取りながら実施できたことは、評価に値する。</p> <p>○アウトリーチに関しては、プログラムの開発が必要だと思う。例えば、大規模学校にも対応できるような新しいプログラムの開発とか。ワークショップも同じだと思う。アウトリーチの団体からお金をもらってやるわけではなく、えずこの価値を理解してもらうための活動だろうから、高く評価するし、コロナに対応できる、コロナに耐えるプログラムを開発して前向きに進めていってほしい。</p> <p>○仙台市内の公共施設はコロナで休館して人を遠ざけるような態度になっている。夜も電気をつけるなど、人に寄り添った環境づくり、顔が見える関係づくり、小さな網目のような心に届くセーフティネットをつくっていただければと思う。えずこホールの活動を、私自身は応援したい。</p>	<p>○ノウハウの蓄積を含めむ人材育成と効率化を図りながら引き続き取り組んでいきたい。また、コロナ禍における安心、安全な取り組みについても創意工夫を図っていきたい。</p> <p>○大規模校や福祉施設が受け入れ可能なアウトリーチ事業の新たなプログラム開発に向け、これまでの実績やノウハウを活かした考察や研究を進めていく。</p> <p>○文化芸術活動は、地域住民の生活に直結している。開いた場としての劇場づくりは、地域社会の生活を守り、新しい生活スタイルの提案を可能とする。そうした視点を持って、各種事業に取り組んでいく。</p>

3. 心の鑑賞事業

事業目的	音楽、演劇、異文化体験事業、幅広いジャンルの中から優れた作品、演目を厳選して開催する。また、就学援助制度を受けている小中学生とその保護者を招待する「えずこサンプラプロジェクト」を実施するほか、地場産品を素材とした飲食ブースを出店し、食文化体験もできる事業として開催する。
事業名	① えずこ寄席 2020 春風亭一朝×古今亭志ん輔 二人会 ② 東京芸術劇場プロデュース「真夏の夜の夢」

成 果				課 題																
<p>① えずこ寄席 2020 春風亭一朝×古今亭志ん輔 二人会</p> <table border="1" data-bbox="161 1541 962 1727"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年11月6日(金) 14時～</td> <td>平土間ホール</td> <td>61名</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>16時～</td> <td>平土間ホール</td> <td>64名</td> <td>98.5%</td> </tr> <tr> <td>19時～</td> <td>平土間ホール</td> <td>63名</td> <td>96.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>寄席ならではの距離感、臨場感を演出し、どの席からでも鑑賞しやすい空間づくりにこだわるえずこ寄席。また、旬で脂がのった噺家を招聘するというコンセプトにもこだわり、10年以上継続、実施してきた。そうした趣旨が地域にも浸透し、前売券が売り切れるほどの人気の事業となった。新型コロナウイルス感染対策の観点から、公演時間を1時間程度に短縮。さらに初めて1日3回公演で実施した。観客数も半数以下に制限し、安心して鑑賞できる会場づくりにも努めた。</p>					開催日	会場	入場者数	入場率	令和2年11月6日(金) 14時～	平土間ホール	61名	93.8%	16時～	平土間ホール	64名	98.5%	19時～	平土間ホール	63名	96.9%
開催日	会場	入場者数	入場率																	
令和2年11月6日(金) 14時～	平土間ホール	61名	93.8%																	
16時～	平土間ホール	64名	98.5%																	
19時～	平土間ホール	63名	96.9%																	
				<p>えずこ寄席は、長年に亘り演芸場をイメージする会場の設えや、噺家と観客との距離感、噺家やネタ帳を元にコーディネートするなどオリジナルブランド事業となっている。継続性に加え、事業コンセプトをしっかり維持し、えずこ寄席ファンの期待にも答えられる取り組みが重要である。</p>																

成 果	課 題								
<p>②東京芸術劇場プロデュース「真夏の夜の夢」</p> <table border="1" data-bbox="161 277 962 356"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年12月5日(土)</td> <td>大ホール</td> <td>371名</td> <td>85.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>東京芸術劇場30周年記念事業として上演され、今期最大の注目作とされた「真夏の夜の夢」。圧倒的なビジュアルセンスと、エネルギーが渦巻く舞台作りで、“ルーマニアの蝮川”とも称される巨匠シルビウ・ブルカレーテが演出を手がけた。そして脚本には日本が誇る演出家、野田秀樹が担当。洗練された舞台構成、さらに創造性あふれる映像美を駆使したステージでは、言葉遊びが繰り広げられ、そのセリフの中に切ない恋心と欲望が渦巻く世界観を映し出した。全国公演の最終日もあり、作品の見納めを惜しみつつ、客席からはスタンディングによる惜しみない拍手が贈られた。</p>	開催日	会場	入場者数	入場率	令和2年12月5日(土)	大ホール	371名	85.1%	<p>上質な演劇作品の上演は、作品性が重視される一方、出演するキャストの知名度によってチケット販売が大きく影響することから、特に集客数の多い大ホールを会場とする場合、収益バランスが優先になる傾向があり、質の担保をどのように確保していくか、事業費の確保なども課題とされる。</p>
開催日	会場	入場者数	入場率						
令和2年12月5日(土)	大ホール	371名	85.1%						
<p>【新型コロナ影響により開催中止または延期となった事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生招待事業 異文化体験公演「LEO」 ○一般公演 異文化体験公演「LEO」 ○共催事業 村治佳織ギターリサイタル ○宝くじ文化公演 加藤登紀子コンサート…令和3年度に延期 									

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○よい芸術や音楽・演劇などを安全と収益のバランスを考慮し、企画・実施されたことは、楽しみが少ない中で、地域の人々の心に楽しみを与えたと思う。今後も、安心安全を考えての即中止という結論を急がず、可能性を見つける努力をお願いしたい。</p> <p>○鑑賞事業は、毎回違う買い物というが、そういうタイプの事業で難しいと思うが、バランスよく続けていただきたい。また、コロナの状況で、公共の劇場としてしっかり数字を出していて、素晴らしい。</p> <p>○鑑賞型の事業は、顕在的ニーズで、地域の鑑賞者もいると思う。逆に、社会包摂型の事業は潜在的ニーズの事業だと思う。それぞれが表と裏ですので、どちらかに偏ることなく、社会的に弱い人たちも大事にしてほしい。</p>	<p>○今後もさまざまなジャンルから良質な舞台作品を提供し、収益バランスも考慮しつつ、開催していきたい。同時に感染対策を講じながら取り組みも継続していく。</p> <p>○事業アンケートの分析では、コロナの感染状況の中でも一定数、舞台を求めている人たちがいる。今後も状況を注視しながら事業を進めていきたいと考えている。</p>

4. その他の（社会包摂型）事業

<p>■えぞこサンプラプロジェクト</p> <p>【概要】 地元の企業や団体より協賛金をいただきながら、就学援助制度を受けられているご家族の皆様を鑑賞事業へ無料でご招待する「えぞこサンプラプロジェクト」。今年で4年目を迎え、定着しつつある。今年度は新型コロナウイルスの影響から対象事業数も少なかったが、2事業7組20名の皆様にご鑑賞いただき、参加いただいた児童や生徒とご家族からの感想文には多くの喜びと感謝のこぼれが寄せられた。 (昨年実績 計7事業 25組 67名)</p> <p>【令和2年度までの過去3年間で協賛いただいた団体や企業】 (有)山田防水工業、(株)新日電業商会、(株)墓石のやまいし、甘糟医院、(株)五光製作所、(株)タカヤ、大河原ロータリークラブ、大誠運輸(株)、減災みやぎ(株)、(株)津田印刷、村田ロータリークラブ、(株)ヒルズ、柴田ロータリークラブ（敬称略・順不同）</p>	<p>民間企業等の新規協賛先の固定化もあり、新規開拓が課題。さらに、現在の対象は3町（大河原・村田・柴田）の児童・生徒にとどまっているが、今後仙南全域を対象にできるかなど課題が残っている。</p>
<p>■職場体験受け入れ</p> <p>槻木中学校（8名×2日） 船迫中学校（4名×1日） 伊具高校（1名×3日） 計3校、13名（昨年度実績 計8校、33名）</p>	<p>受け入れ人数によりプログラムの変化が求められ、実施当時の出勤シフトや貸館などに合わせ、当日のプログラム等コンテンツが左右されるといった課題がある。</p>
<p>有識者による意見・評価</p>	<p>意見に対する対応等</p>
<p>○全体について 昨年度は数字上のデータは、残念な結果だった。しかし、えぞこホールや教材センターが関わった行事が、コロナによる感染が生じなかったことは職員の皆様の努力があったからだと思う。今年度もまだまだ日常生活が不透明な状況が続くと予想されるが、仙南の芸術文化の普及や住民の心の成長のためにご努力をよろしくお願ひしたい。</p>	<p>○コロナ禍において、社会生活の停滞やコミュニティの分断などさまざまな課題が露呈する中、劇場単体に頼らず、教材センターとも連携協力を図りながら、住民に寄り添った事業を展開していく。変わりゆく社会情勢を敏感に捉え、柔軟かつ適切に対応できる組織づくりも行っていきたい。</p>